

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

山本 四十代半ば、たまたま観たNHKのテレビ番組に投句して入選、特選を次々といただき、俳句が面白くなりました。十年余り前、愛媛県主催の「みかんの国俳句大会」では大賞をいただき、授賞式で八木会長とお会いし、会長の「ただよへる電気クラゲに部品かな」の句に出会いました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

山本 滑稽俳句は、私が人生で出会った一番、大切なかけがえのないものです。言葉では表現できません。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

山本 どのようなものか…、私には難しく文字に出来ません。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

山本 まず、人といることが楽しく思えることですね。それから、身体はしたたかに老いても心は何とか枯れずにすむことです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

山本 あくまで本当のことをそのまま詠む。そして、有り得ないことを、まことらしくチラつかせることです。

【代表句】

太陽が月が立ち寄る蜜柑山	みかんの国俳句大賞
もう泳ぐことはない波を見てゐる	NHK全国俳句大会大賞
どの薔薇も嗅いでみたくてここはパリ	朝日俳壇年間賞
大根を目利きのやうに選びけり	
羽抜鳥ついてゆくのも羽抜鳥	